

衣服の丸久

バングラで一貫生産

10月稼働 生地工場を建設



丸久がバングラデシュに構える縫製工場。10月稼働を目指して、隣接地に生地工場を建設している（同社提供）

アパレルメーカーの丸久（鳴門市）は、バングラデシュの衣料品生産工場で、生地製造から縫製加工までの一貫生産に乗り出す。昨年6月操業の縫製工場の隣接地に生地製造工場を建設してお

り、10月稼働予定。生産工程の効率化を進め、欧米への販路拡大につなげたいと考えた。建設中の生地工場は、2階建て約7600平方メートル。染色機や編み機、汚水処理設備などを備え

る。従業員80人規模で1日当たりTシャツ2万5千枚分の生産能力を誇る。投資額は約3億円。将来的にはさらに増設の計画だ。同社はこれまで主にバングラデシュで生地を調達してきたが、受注ロツ

トの大きい欧米企業との取引に対応するには工場機能の増強が必要と判断。また、政府の2011年度税制改正で発展途上国であるバングラデシュに対する関税優遇制度が一段と緩和されたため、一層の価格競争力が見込めるようになった。

丸久によると、バングラデシュはアジア諸国の中では人件費が安く、服飾先進国である欧州のメーカーが生産拠点を設けるなど世界的なアパレル生産地に成長している。日本の縫製業は中国での生産に多くを依存しているが、近年、賃金上昇や政治問題といった「チャイナリスク」が顕著になり、ポスト中国としてバングラデシュに注目が集まっている。

丸久では海外戦略を積極的に進めていて、タイや中国にも海外工場を構えている。中国では昨年4月に初の小売店をオープンしたのに続き8月には縫製工場も増やした。平石雅浩社長は「取引先から予想を上回るアプローチがあり、拡張計画を前倒しした。世界標準に対応できる生産拠点を育てたい」と話している。（廣井和也）